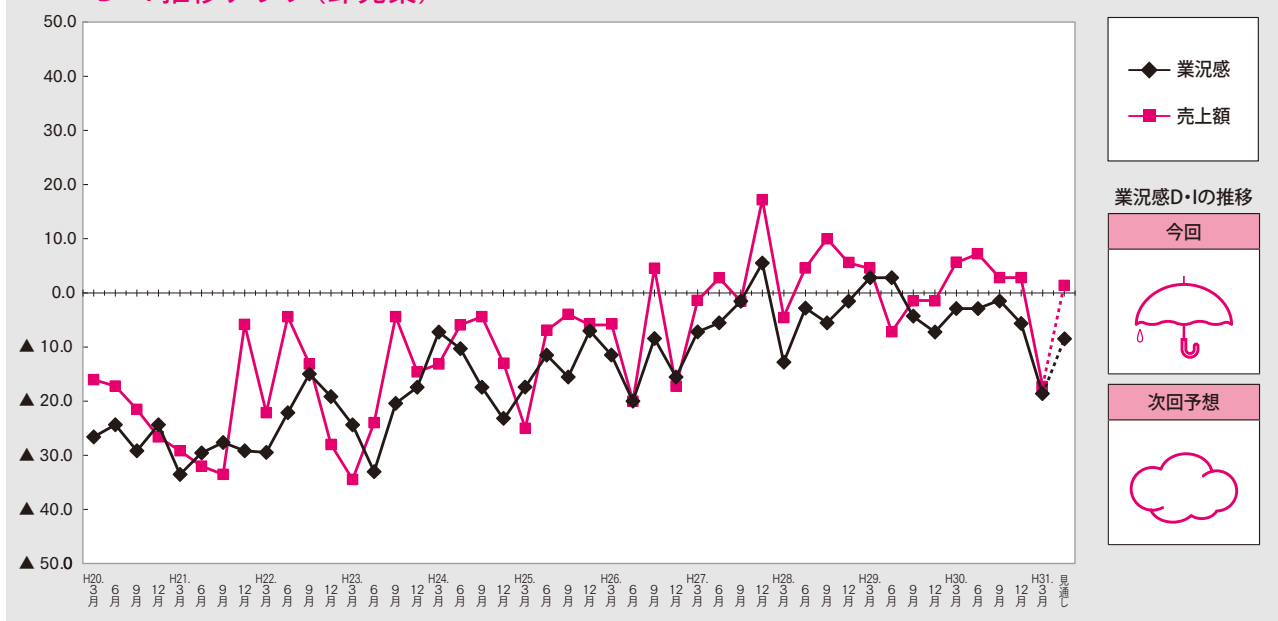


卸売業

Wholesale trade

売上額・収益の減少が膨らむ

D・I推移グラフ(卸売業)



1 今期 (平成31年1 - 3月期)

卸売業の業況感は、今期▲18.6（前期▲5.7）となり前期より更に悪化し、7期連続のD I値マイナスとなった。

売上額のマイナス転換による減少に伴い、収益・販売価格が共に低下。仕入価格・在庫は改善の余地見られるが、依然として設備・人手の不足感が続いている。資金繰りも悪化しており改善が望まれる。

2 来期の予想 (平成31年4 - 6月期)

来期の業況感は▲8.6と売上額・収益も改善する見込みであり、販売価格・仕入れ価格に関しては同水準にて推移。在庫は▲1.4と適正在庫に向けての動きが見られ、業況感の改善に伴い資金繰り▲15.7と大きく改善の見込みあり。また、人手・設備の不足感の改善にも着手する動きが見受けられる。

DI値の推移 (過去1年と3カ月後の予想)

	H30.3月期	H30.6月期	H30.9月期	H30.12月期	H31.3月期	来期見込み
業況感	▲ 2.9	▲ 2.9	▲ 1.4	▲ 5.7	▲ 18.6	▲ 8.6
売上額	5.7	7.1	2.9	2.9	▲ 17.1	1.4
収益	0.0	8.6	▲ 2.9	▲ 1.4	▲ 24.3	▲ 8.6
販売価格	10.0	8.6	5.7	15.7	1.4	1.4
仕入価格	▲ 11.4	▲ 15.7	▲ 15.7	▲ 21.4	▲ 14.3	▲ 14.3
在庫	▲ 1.4	▲ 15.7	▲ 10.0	▲ 8.6	▲ 5.7	▲ 1.4
資金繰り	▲ 20.0	▲ 4.3	▲ 18.6	▲ 14.3	▲ 25.7	▲ 15.7
人手	14.3	14.3	14.3	10.0	15.7	14.3
設備状況	4.3	8.6	14.3	7.2	12.9	11.4

業況調査メモ

桜島大根の血管改善効果が鹿児島市の中央病院の臨床試験で2月に確認され、桜島大根の需要が急増している。生産が減少する一方だった桜島大根の潜在力に着目し、2000年に「桜島カンパチ&ブリ大根まつり」や世界一大きな大根としてギネス挑戦を企画し、桜島大根の生産向上や機能性解明に関係者らと粘り強く取り組んできた桜島出身の人物の存在が大きい。今や日本一のラーメンイベントとなった第5回鹿児島ラーメン王決定戦のきっかけとなったのは、K T Sと業務用食品卸商社の「地元食文化に貢献するイベントを」の思い。地場産品振興には熱心な卸商社やコーディネーターの存在が欠かせない。